

宗像市市民参画等推進審議会会議録（会議内容の要点筆記）

日 時	平成28年8月18日（木）9：30～11：30
場 所	宗像市役所 第2委員会室
委 員	■ 井上豊久 ■ 木村健次 ■ 志岐宏美 ■ 中里留美子 ■ 東博子 ■ 松永年生 ■ 南博 ■ 毛利拓也 ■ 山下恵美子 ■ 吉田晴希 （五十音順、敬称略）
事務局	コミュニティ協働推進課；三好、瀧口、田村、花田、井口、恵下、中野、神 商工観光課元気な島づくり係；武丸、末信

1. はじめに

《市民協働環境部長あいさつ》

本日は、次第書にもございますように協議事項2点についてご審議をお願いしたいと思ひます。1点目は「宗像市コミュニティ施策検証審議会答申（平成23年8月）事項の進捗管理について」。こちらにつきましては前回の審議会から引き続きという事でご審議をお願いしたいと思います。2点目につきましては「平成28年度人づくりでまちづくり事業補助金」の2次募集、それから「元気な島づくり事業補助金」の2次募集分についての事前勉強会として、内容のご説明を差し上げたいと思ひておりますのでご審議をよろしくお願い致します。それでは会長、進行をよろしくお願い致します。

《会長あいさつ》

今日は、1つ目は検証審議会答申事項の進捗管理、2つ目は審査会についてです。前回本当に多様な建設的な意見を沢山いただきました。委員長、副委員長と事務局の方、皆様のご意見を簡潔にまとめさせていただいたものが意見書の素案になっておりますが、今日で確定させていただければと思ひております。この案についてどこからでも結構ですので、どうぞご遠慮なくご意見いただければと思ひます。

2. 協議事項

（1）宗像市コミュニティ施策検証審議会答申（H23. 8）事項の進捗管理について

◇事務局（コミュニティ協働推進課）から、配布資料に基づき説明

●答申の中で7項目提案したのですが、そのうちの7項目の行政職員の意識改革、これについて努力が足りないのではないかなについては特出しているのですね。つまりその他の6つの課題を全て串刺しにするテーマじゃないかと。行政職員の意識改革。総論の部分でもいいと思うのですが、進捗管理という事であれば、その点について行政は自らどれだけ汗を流して直そうとしているのか、それについて触れないでおくというのはちょっといかなものかと思ひます。

◇意識改革の部分は基本的に触れられてないのでどこかに入れなければいけないと思ひました。総論の中に今おっしゃっていただいた意識改革、例えば「連携協働について意識改革は進んではいるがまだ不十分であり課題が残る」などの文章を入れるのがいいのではと。

以前よりは、課の縦割りは若干解消されているようなところはあるのですが、まだまだ不十分という気がします。

●行政職員の意識改革はある意味永遠のテーマでゴールはないわけで。

◇それではまだ意識改革が必要だと、そういった文面で書き込みさせていただきます。

●答申の最後の段階でワークショップ審議会というのをやり、いろんな意見が出てきました。全体として色濃くなってきたのは、コミュニティは子どもたちにあるもので、子どもたちがコミュニティにいつも何らかの形で関わっていく。子どもたちはコミュニティの存在を子どもたちなりに意識出来ている、そういう状況が必要なのではないかと思います。やはりコミュニティのこれからを考えると、これからを担っていく新しい世代のみなさんたちにとって、コミュニティというものはとても密着感のある存在であるべきです。吉武などは、子どもたちがそこに入出入りしている姿が印象的。いろんなエチケットマナーを含めて子どもを指導していらっしゃる姿、日常的にあるとはとても素晴らしいことであるし、同時にこれからのコミュニティを考えるととても大事なことです。ここまで頑張ってきている取組みをコミュニティの次世代にどう渡していくかという事をきちんと意識したまとめになるとありがたい。

●私も運営が高齢の方が中心に行われているので、子どもに関する活動が弱い地域もあるのかなという感じはしました。

●まちづくりの対象としては、子どもの育成に非常に重きを置いているのですね。子どもの両親など、もう少し焦点をあててやっていかないと次に繋がっていかないという気がします。

●親は働いていますので、その世代は昼間は地域になかなかいません。自治会でも課題になっていますが、これをすればいいということはなかなかないと思うのです。次世代につなぐ、子どもたちをどう関わらせるかということと親の世代をどう巻き込むかということ、それは少し質が違うので分けて考えた方が良いのではないかと思います。

●元気な島づくり補助金の申請において地島は、PTA がこれをやりますというかたちで入り込んできています。何か組織的なものを入れこんでいくことで、足りない分を補充する方法があると思いますね。

●子どもに関してはまちづくりの方にいれさせてもらって、中堅層、人材育成の方に入れて検討させていただければと思います。

●コミュニティに入る研修も取り入れていただいているというのは、凄く画期的な部分もあると思います。「研修もさらに充実する必要がある」とかそういった感じで入れ込むという方向はいかがでしょうか。

●例えば、「コミュニティは基本的にすべての部署に通じるものである。」という表現を少し入れますか。

◇もともと私どもは協働の視点というものを全ての施策の根底においておるところです。そして、施政方針にしても全て協働というものを入れていて、その上で、いろいろな研修や事業をやっていますが、個別の話で当然私たちが取り組まなければいけない大きな課題として、やはり職員の中には意識が低いものもおりますので、委員さんの意見をしっかり入れていただいて構わないです。

●各論のところの「運営協議会事務局体制の強化の観点から人件費の見直し」など。少し

入れてはどうでしょうか。

●事務局員の人件費など、かなり具体的な話になっていますよね。その中にその専属の職員がいて、優秀な専属職員を集めるために人件費を上げないといけないというのは、まさにその通りですが。そこはコミュニティの管理の在り方をどうするかという事を考える中で考えればいいことで、ここで人件費について具体的な話を出すのは、私はどうかなと思います。

●前回の5年前の検証会議の時は、人件費はむしろ割と大きなテーマでした。5年程前、事務局長さんを中心にコミュニティ基本構想などの見直しをして、確か1年くらいかけて検討された。その中でやはり、人件費が実際の実態にあってない、実際は3人～4人必要ということで、どこのコミュニティでも課題ということでした。具体的に金額をいくらしなさいという具体的な数字を出すのは、私たちは実情など分からないので審議会としてそこまで判断するのはどうだろうかと思うのですが、人件費を見直す必要があるということは指摘した方がいいと思います。

●そこまで言うと、もう事務局長さんがもう見直しをされているのでここはとってもいいのかなという感じはするのですが。

●事務局の人件費の見直しという表現でいいのかなと思います。

●コミュニティができた時、課題は、どちらかというといかに収支をうまくやっていくか、貸し部屋を利用してもらおうと、事務員も出来るだけ少ない数でやっていこうとしていたと思います。徐々に仕事が増えてきたという事もあるのですが、寺小屋など手当がなかったのが、何か手当を出しましょう、市の補助金を出しましょうとなっている。そうすると何もかもどんどん上がっていく。確かに上がったならやる気は出てくるでしょうが、そこはある程度逆に自主管理として抑えることも考えないと、どんどん上がっていきます、そしてそれが不十分だから仕事が出来きません、といった違う方向に進む可能性もあるので、その点を十分気をつけないといけないと思います。

●もちろんバランスというのはあると思いますが、最低限今本当に困っているというところなので、そこはやはり審議で、事務局員ということではなく事務局の活動の充実のために、環境の充実みたいなことは入れたほうがいいのではないかなと思います。

●そうしたほうがむしろいいでしょう。個別に出したらおかしい話。

●以前意見を出した時に少し言いましたが、今事務局員の時間給が850円で、数年前まではまあまあのレベルだったのですが、今の実態としては、850円ではどうしようもない。時給900円、1000円の時代なので辞めて他のところに行ったりすることにもなりかねないので、財源の確保を含めて早急に見直しをお願いしたい。

◇これまでも個別に十分にお話を聞かしてもらっていますので、早急には取り組むようにしております。

●「コミュニティ・センターの整備、管理・運営」のところで、意見書の中にキッズルーム等を入れてらっしゃると思うのですが、あえてここで書く必要があるのかなと思います。

●私もキッズルームだけをここに明記するのではなく、寺小屋や子ども食堂などの新しいニーズが出てきているので、むしろもう少し子どもたちの利用に配慮したことを、今後、それぞれのコミュニティで検討していただければいいかなと思うのです。

●「コミュニティで何かするから集まりなさい」ではなく、自分の地域で大人がコミュニティを中心にやっていることを、子どもが小さいうちから少しずつ理解していく、ただ何かイベントをなささいなどと言うのではなく、自分の地域で生活している、成長しているということを意識していくようなかたちにもっていかないといけない。それを意識していないとまた何かイベントが1つ増えて忙しくなるみたいになるのはちょっと違うかなと思います。

●特別イベントがあるからとかではなく、コミュニティが利用出来る場、居場所になったらいいなというふうに思っています。

●前回の話し合いで、例えば協働化提案がなかなか進まない中で、新規の事業をする時に、新規立ち上げに関しては、別の形で少し予算を付けるということも考えていったほうがいいのではといった意見がありました。やはり維持管理だけでなく、時代が変わっていくに伴いコミュニティ・センターに必要とされてきているものも変わってきていて、そうなる施設自体を扱わなくてはというような、お金がかかるという事もあったと思います。だからそういう面で、新規事業をする時に行政もそれを推し進めていくために応援をしているというようなことを何かここで出してはどうか。

●赤間西地区だったと思うのですが、子ども育成課がコミュニティでプレイパークをする時は、立ち上げた費用として50万出すようにしていますね。

●寺小屋はどうですか。

◇寺小屋は、県の補助金になります。

●子ども育成課が新規の立ち上げについては支援をしようとしている。高齢者などの介護に関連して、地域のボランティアの活用といった、どのコミュニティでも取り組める可能性があるような事業の支援は、他の面でもあったらいいと思います。

●新規事業も含めて自主財源確保という表現を使っているが、逆に言うと新規事業だけ特化すると微妙になる感じもあるため、先ほど出ていたように、具体的に情報提供等を入れるかどうか。

●それでは今日は短い時間での議論でしたので、もし何か別にご意見がございましたら、事務局までメールなどで1週間以内ぐらいにお送りしていただければと思います。そして、意見書の細かい文面については、委員長副委員長と事務局の方にある程度お任せいただいて、1回出来上がったものを委員さんにお送りさせていただき、そこで大きいものがあればやりとりして確定という事にさせていただきたいと思います。

(2) 平成28年度人づくりでまちづくり事業補助金(2次募集分)及び 元気な島づくり事業補助金(2次募集分)に係る申請内容事前協議

◇事務局(コミュニティ協働推進課)から、配布資料に基づき説明。

人づくりでまちづくり事業補助金について

●備品などはある程度既に揃えているのでは。2年目で、また腕章や名札や衣装ケースなどが出てきているようだが。審査会当日に、腕章の購入などに関して確認させていただきます。

●補助金申請額が今回 164,000 円。今後、2 年目 3 年目が終わったら資金はどうするか。自分たちで何か寄付金を集めて実施するのか。そういったことは本人たちに聞かないと分からないだろうが、コミュニティがすべきことだと思うのだが。

◇どちらを肩入れするわけではなくあくまで中立の立場で発言させていただきますと、今委員がおっしゃったように、これは自治会も同じだと思うのですが、例えば、吉武地区のコミュニティ活動は、正直、人口規模が少ないので、ある地区の役になるということは、それぞれの方がある意味覚悟をもって出てこられているのだと思うのですよね。そして、吉武の場合、1 回関わると任期で何年間か役として関わるというのが既にシステム化されている感じがある。人口規模が約 2000 人くらいなので、その規模でコミュニティ活動を運営していくのと、赤間地区は 16,000 人程度と異なる。そして今申請が出ているサポート隊がサポートする赤間宿まつりは、今約 2 万人とか 2 万 5 千人規模というイベントになっていると思います。これはコミュニティだけではなく、勝屋酒造の酒蔵開きなどとジョイントしてやっているものなので、何をするにしても規模が大きいというのが正直あります。そして、先ほど言いましたように、1 年間、各部会の自分の役の中でコミュニティ活動に関わり、やはりある程度大変な思いをして、大変だったということだけでなく、ボランティアで活動してお酒飲んでみんなと顔見知りになって結構楽しかったねという経験をした人が、自分はもう役は外れるが来年も関わってもいいよ、ということの積み重ねの部分なのです。だから、数が多いがために 1 年交代で人が入れ替わってしまうところのデメリットを解消しようというのを、多分ここで関わった方は思われたのだと思います。人が変わるとやはり経験値がなくなりレベルがすごく下がります。そこを何とかフォローしたいという気持ちがあり、そういう志の方が集まったのではないかなと、私は理解しています。

◇事務局（商工観光課）から、配布資料に基づき説明。

元気な島づくり事業補助金について

●先ほど説明がありましたが、実際実施している事業を、今回挙げているという事は、現在事業費の補助金が足りないから、よりうまくやっていく為にもう少し金額がいりますよという事でよろしいですか。

●はい。あと、先ほどもおっしゃったように、もう少し新しいことにも取り組みたいという思いも現状ではお持ちでいらっしゃると思います。

●以前大島が出た時に、どうして地島は出さないのかと、同じ子どもたちの環境をよくしてあげたいなと思っていたので、講師の方の費用が出ることによってよかった。今まではお母さん達はその費用を全部出していたということですか。

⇒最初にもありましたように、今回、PTA の会費からも補助を出すのですが、PTA の負担もあったとみています。

●活動自体は、子どもたちにとってとても大事で必要な活動だと思うのですが、予算面では、例えば予算書に「文化祭の学習発表材料費」とありますが、学校教育の一環、学校行事として行われていけば、当然教育委員会からも出ていると思うのですよね。

●文化祭消耗品も学校経費として出している部分も多少あると思います。教育委員会が学校の教育に関して出している費用と今回申請しているものの割合など、今回出していた分が、これまではどういう風なお金の流れ動きになっていたかっていうところも合わ

せて説明をしてほしい。

●椿まつりにしても、コミュニティからもある程度予算が出ていたと思うので、そのあたりの説明を。

●2枚目の自主体制のところ、PTAの本部役員、評議員が企画立案されるとあるのですが、期待される効果にもあるような効果を出すためには子供たちが企画するなどあった方がいいような気がします。期待される効果の表題に書いてありますが、子どもたちが本当に地島に愛着をもつなどということは、結局こういった行事があつてこそですので、よさを再認識させたりできたらと思います。また、最初の1ページの目的にも学習指導要領の事も書かれているので、新しい学習指導要領で言うと、子供たちが自主的にやっていく学習をたくさんやっていきましょうということなので、そう意味では子どもたちが主体となった運営などがあればすばらしいなと思います。

●今おっしゃった最後の助言的な部分を、コメントとしてあとに入れるという部分もあるかもしれません。

●この取組みは毎年続けていく事だろうから、人まちの補助金終了後、玄海コミュニティの中に予算を組ませるのか。また玄海コミュニティがこの取組みを知っているかどうかということもある。玄海コミュニティの耳に入っていないことが結構多いのではないかな。玄海コミュニティの会長や事務局長に、やはりこういう申請書をあげるということをきっちり言っておかないといけない。

●玄海コミュニティと今の時点でどういう連携や協働をしているのか。

●玄海コミュニティの役員会に地島振興部会があつて地島の方が参加されていますので、そこへ市からも情報を流しますが、地島の島民の方からしてほしいと思います。

●島の人は、島のことは島でやりたいという意識があるだろうが、コミュニティが大事なので、そのあたりのところは確認をお願いしたい。

●補助金の申請終了後、やはり玄海コミュニティはある程度応援してあげないといけないと思います。

●中学校、高校になるとさらに、1学年400人などの大人数になるわけなので、小中学生時代にそういうことを経験することが本当に大事だと思います。おそらく小中一貫の関連で、ある程度、玄海小学校と玄海中学校が交流されていると思うので、その辺を少し紹介していただけるといいかと思います。

(3) その他

事務局より、社会教育委員に関する案内を2点。1点目に「全国社会教育委員連合会における任意の寄附金に係る福岡県の対応について（通知）」。2点目に「平成28年度第46回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会の開催要項の送付について（依頼）」。参加希望の方は、9月1日（木）までに事務局まで申込を。

＝ 散 会 ＝